

Q：「セックス（性行為）で感染する病気って？」

「性行為で感染する病気」を総称して、性感染症（STI※）といいます。

ウイルス、細菌、原虫などが、性器、泌尿器、肛門、口腔などに接触することで感染します。

しかし、症状が軽かったり、なかったりすることもあり、気がつかない間に感染していることがあります。性別によって、症状の出方に違いがあります。

性感染症は、性行為によって感染した人の精液や膣（ちつ）分泌液の他、性器、泌尿器（ひにようき）周囲等の病原体や分泌液に直接接触することによって感染します。

性感染症の病原体（細菌やウイルスなど）は、主に感染した人の精液、膣分泌液（ちつぶんぴつえき）などに存在します。

性行為・・・

現在、性行為は多様化しており、ひとくちに「セックス」といっても色々です。

ここでいう「性行為」には、次のような広い意味での性行為も含まれます。

*膣（ちつ）性交

*口腔性交（オーラスセックス）：フェラチオ・クニリングス

*肛門性交（アナルセックス）

Q：「セックス（性行為）で感染する病気って？」

1. 性器クラミジア感染症

細菌による感染です。ほとんどは性行為により、体液や血液を介して性器や喉の粘膜に感染します。妊婦が感染している場合には、出産時に母親から赤ちゃんに感染することもあります。予防のためには、性交渉の際にコンドームを適切に使用することが大切です。うつされる状態を繰り返す、「ピンポン感染」の予防にもつながります。

2. 梅毒（ばいどく）

梅毒とは、梅毒トレポネーマと呼ばれる細菌に感染することによって引き起こされます。主な感染経路は性行為とされ、梅毒による皮膚症状は、治療をしなくても症状が自然と消えてしまうことがあります。治ったわけではありません。治療をしない限り、病原体は体内に残り続けます。症状がなくても進行するため、完治のためには治療を継続することが大切です。

3. 淋病（淋菌感染症）

淋菌による感染症です。ほとんどは性行為により、性器に感染することが一般的ですが、喉や直腸などに感染することもあります。淋病は男性と女性で症状が異なります。男性は排尿時の痛みや尿道から膿のような分泌物が出るといった症状が現れますが、女性の場合は自覚症状が少ない傾向があります。

4. 尖圭コンジローマ

ヒトパピローマウイルスによる外陰部に小さな尖ったイボができる病気です。イボができないこともあり、痛みやかゆみなどの自覚症状もほとんどないので、感染に気付かないことがあります。普通は、自覚症状はありませんが、時々かゆみや、セックスの時に痛みを感じることもあります。ウイルスに感染してもイボができないこともあります。外科的治療や薬物塗布を行います。パートナーも一緒に完全に治しましょう。

5. トリコモナス症

女性に強い症状が出ます。強い悪臭がする白色から黄色の泡状のおりものが大量に出てきます。陰部がかゆくなったり痛くなったりします。時にセックスの時や排尿時に痛みが生じます。しかし、症状がないこともあります。

男性は症状がないことが多く、あっても排尿時の痛みや頻尿ぐらいです。前立腺炎を起こすこともあります。

トリコモナス原虫による感染症です。抗トリコモナス剤の内服薬や膣（ちつ）錠で治療します。特に妊娠中の治療は、必ず医師の指示を守りましょう。パートナーも一緒に完全に治しましょう。

6. 性器カンジダ症

カンジダは真菌（カビ）の一種です。セックスで感染しますが、健康な人でも体内に持っていることがあるので、性器からカンジダが見つかっていても性器カンジダ症を発症しているとはいえません。また、感染したからといってすぐに発症するわけではなく、抵抗力が落ちた時などに発症します。

女性は陰部に強いかゆみがあります。おりものが白く、ヨーグルト状であったり、かたまりができます。また、性器の炎症（痛みや熱感）、セックスの時に痛みが生じることもあります。

男性は無症状か、またはかゆみがあります。ペニスの先端が赤くなることや水泡ができることもあります。

抗真菌剤の入ったクリーム、膣（ちつ）剤などを使用します。抗生物質、ステロイド、免疫抑制剤では悪化するので、必ず医師の指示に従って治療しましょう。

7. A型肝炎

A型肝炎とは、A型肝炎ウイルスによる感染症です。

感染経路は、汚染された食物などを摂取することによっておこる感染、ウイルスが付着した手で口に触れることによる感染があります（経口感染）。また、性的接触による感染（糞口感染）もあります。

特別な治療方法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。安静と食事療法が基本となります。

8. B型肝炎

B型肝炎は、急性と慢性に分けられます。20歳代～50歳代成人の急性B型肝炎の感染経路としてセックスは重大な感染経路です。ウイルスは、血液、精液、膣（ちつ）分泌液に多く含まれていて、粘膜や傷口から感染します。主な感染経路は、性行為感染、母子感染及び血液感染の3つです。

症状は比較的ゆっくり出ます。微熱、食欲不振、だるさ、吐き気・嘔吐、みぞおちの右側の痛み、お腹が張るなどの症状がみられ、引き続き、黄疸が出てきます。多くの場合は、これらの症状は一か月程度で回復します。

免疫がまだ十分でない乳幼児や、抵抗力が弱っている大人が感染すると、ウイルスキャリアとして慢性化します。はっきりした症状が出ないまま、気が付かないうちに肝硬変や肝がんに行進します。

治療によりウイルス量を減らし、肝障害の進行を抑えることができるので、早期に発見し、治療することが大切です。

A:性行為感染症を予防するための方法は以下のとおりです。

コンドーム

コンドームだけで、性行為感染症のすべてを予防することはできませんが、感染の危険性をかなり低下させることができます。これは、病原体を含んだ精液、膣分泌液が、粘膜にふれるのを防いで、病原体が侵入することを防ぐからです。

性感染症は、1回のセックスでも感染することがあります。病気によって、感染力が異なりますが、誰でも感染する可能性があります。予防する術が無い時には、セックスをしないという選択も考える必要があります。

自分の体を大切にすることは、パートナーの体を大切にすることにつながります。

妊娠届、親子健康手帳（母子健康手帳）、妊婦健康診査、母子医療給付について

子ども総合センター母子保健係 03-3602-1387

妊娠・出産のことやご自身やご家族のからだ、こころの相談、困りごとについて

青戸保健センター 03-3602-1284

金町保健センター 03-3607-4141

新小岩保健センター 03-3696-3781

水元保健センター 03-3627-1911